

教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	4	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	様々な文章に触れ、表現の世界への理解を深める。 口語文法を正確に理解し、古典文法にも活かせるようにする。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。 授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける。
使用教科書	『国語 1』（光村出版） 『新しい書き写一・二・三年』（東京書籍）
使用副教材	『実力練成テキスト 国語 1年』（文理） 『常用漢字クリア』（尚文出版） 『新国語便覧』（第一学習社） 『論理エンジンOS 1』（水王舎）
評価基準	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業に対する姿勢などを総合的に判断して評価する。
学習内容	<p>言語知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常用漢字の習得</li> </ul> <p>文法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文節相互の関係、文の成分を学習する。</li> <li>单なる知識ではなく、文章を読む上で、学んだ文法知識を活用することが出来るよう取り組む。</li> <li>口語文法が文語文法の基礎となるということをしっかりと意識出来るようになる。</li> </ul> <p>詩歌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩や和歌の特徴をとらえ、言葉の感覚を豊かにする。</li> </ul> <p>文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現に注意し、情景や心情をとらえる。</li> <li>・作品の展開をとらえ、状況や人間関係を理解する。</li> </ul> <p>説明的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文相の構成や要旨をとらえ、目的や必要に応じて要約する。</li> <li>・事実と意見を区別し、筆者のものの見方や考え方を理解する。</li> </ul> <p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉や仮名遣いなどの違いをとらえ、比較的馴染みのある文章を通じて、古典の文章に親しむ。</li> </ul>

## 2. 指導計画

学年	科目	単元	項目	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月									
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
1年	国語	詩	「野原はうたう」等																																
		物語	「はじまりの風」等																																
		説明文	「ちょっと立ち止まって」等																																
		古文	いろは歌																																
		詩	詩の世界 等																																
		読書活動・物語	「あと少し、もう少し」等																																
		説明文	「比喩で広がる言葉の世界」等																																
		物語	「星の光が降るころに」等																																
		記録・説明文	「『音楽』をもつ角、シジュウカラ」等																																
		古文	竹取物語																																
		随筆	「隨筆二編」等																																
		説明文	「不思議の國を見つひます」等																																
		物語	「少年の日の思い出」																																
		言語知識	漢字・文法等																																
		書道	書写																																
				1 学 期 中 間 考 査											1 学 期 期 末 考 査												2 学 期 中 間 考 査			2 学 期 期 末 考 査					学 年 末 考 査

教科	科目	単位数	対象学年
社会	地理・歴史	3	1

### 1. 学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、倭が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように、基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し、課題を解決する能力を一層培うため、各分野において、適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して、言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的、体験的な学習の充実を図る。その際、情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	中学校の地理（帝国書院） 中学校社会科地図（帝国書院） 中学歴史 日本と世界（山川出版社）
使用副教材	・アクティブ地理 総合（浜島書店） 　・基礎をきずく地理① 帝国書院版（浜島書店） ・中学歴史 日本と世界ノート改訂版（山川出版社）
評価基準	知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目について、授業・定期考查・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	[地理] 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿 第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 第2章 世界の諸地域 1節 アジア州 2節 ヨーロッパ州 3節 アフリカ州 4節 北アメリカ州 5節 南アメリカ州 6節 オセアニア州  [歴史] 第1章 歴史との対話 1節 私たちと歴史 2節 身近な地域を調べよう 第2章 古代までの日本 1節 世界の諸文明 2節 日本文化のあけぼの 3節 律令国家の形成 4節 貴族政治と国風文化 第3章 中世の日本 1節 中世社会の成立 2節 武家社会の成長 第4章 近世の日本 1節 一体化へ向かう世界 2節 近世社会の成立

## 2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①(数式)	3	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記の授業内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に、計算力(数の四則計算、文字式の計算、1次方程式の解法)の育成に力を入れるとともに、数量関係を式で表す力をつける。</li> <li>学力推移調査において偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。</li> </ul>
目標達成のための留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の算数と数学の円滑な接続を図ること。</li> <li>授業の復習を中心とし、自立した家庭学習を定着させるための「適切な課題と点検」を年間を通じて計画的かつ意図的に行うこと。</li> <li>負の数の概念、文字式の理解など、具象から抽象への移行は大人が考える以上にハードルが高いことを念頭に置き、表面的な指導に終わらせず、本質的な理解を目指すこと。</li> <li>生徒の主体的な学習を促すため、AL 型授業や ICT などの活動を通じて生徒集団の資質に応じた授業展開をすること。</li> </ul>
教科書	<p>これからの数学1(数研出版)、これからの数学2(数研出版)</p> <p>これらの数学1探求ノート(数研出版)、これらの数学2探求ノート(数研出版)</p>
副教材	<p>体系数学Ⅰ代数編(数研出版)</p> <p>体系数学問題集Ⅰ代数編(数研出版)</p>
評価方法	<p>定期考查、小テスト、提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また、課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し、総合的に評価する。</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>正の数と負の数 数を負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。</li> <li>式の計算 文字を用いることの必要性と意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理できるようにする。</li> <li>方程式 1次方程式、連立方程式の解き方を理解し、方程式を用いて問題を解決できるようにする。</li> <li>不等式 1次不等式、連立不等式の解き方を理解し、不等式を用いて問題を解決できるようにする。</li> <li>1次関数 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例、1次関数についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察できるようにする。</li> </ol>

## 2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学②(図形)	2	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に、「基本的な作図、空間図形の見取り図・展開図・投影図の描き方、基本的な図形の計量」についての技能を習熟させるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。</li><li>・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。</li></ul>
目標達成のための留意点	図形について、観察、操作や実験などの活動を通して、直感的な理解を深めるとともに、「なぜ？」を大切にし、論理的に考察し、表現する力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学1(数研出版)、これからの数学2(数研出版) これからの数学1探求ノート(数研出版)、これからの数学2探求ノート(数研出版)
副教材	体系数学I 幾何編(数研出版) 体系数学問題集I 幾何編(数研出版)
評価方法	定期考查、小テスト、提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また、課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し、総合的に評価する。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 平面図形 基本的な作図の方法を理解し、それを具体的な場面で活用できるようにする。また、図形の移動について理解し、二つの図形の関係について調べる。</li><li>2. 空間図形 直線や平面の位置関係、空間図形の構成と平面上の表現(投影図)、図形の計量などについて学ぶ。</li><li>3. 図形の性質と合同 図形の基本的な見方や性質を理解するとともに、証明の意義とその進め方について学ぶ。</li><li>4. 三角形と四角形 平行線や三角形(二等辺三角形、直角三角形など)、四角形(平行四辺形など)の性質を明らかにし、その性質を活用できるようにする。</li></ol>

## 2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科①	1	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに、基本事項をよく理解し、事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく、獲得した知識を活用し、考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス1」(啓林館) 「未来へひろがるサイエンス2」(啓林館)
使用副教材	「中学実力練成テキスト 1年」(文理) 「中学実力練成テキスト 2年」(文理)
評価基準	行動観察、発言、発表、自己評価、レポート、ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	1. エネルギーを音・光・力などの観察を通して、さまざまな事物・現象をエネルギーを通して理解させ、エネルギーについての認識を深める。 2. 回路の基本的性質や、電圧と電流との関係について規則性を見出させる。 3. 静電気と電流には関係があることを見出させ、電流の正体について理解させる。 4. 電気の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させる。

## 2. 指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
光・音・力による現象	光による現象				学 期	学 期					学 期	学 期				学 年 末 考 査		
	音による現象																	
	力による現象																	
電流とその利用	電流の性質				中 間 考 査	中 間 考 査					中 間 考 査	中 間 考 査				考 査		
	電流の正体																	
	電流と磁界																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科②	3	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに、事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく、獲得した知識を活用し、考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス1」(啓林館) 「未来へひろがるサイエンス2」(啓林館)
使用副教材	「中学実力練成テキスト 1年」(文理) 「中学実力練成テキスト 2年」(文理)
評価基準	行動観察、発言、発表、自己評価、レポート、ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な植物についての観察・実験を通して、生物の調べ方の基礎を身に付けさせるとともに、植物のつくりとはたらきを理解させ、植物の生活と種類についての認識を深める。</li> <li>・大地の活動の様子や身近な岩石・地層・地形などの観察を通して、地表にみられるさまざまな事物・現象を大地に変化と関連付けて理解させ、大地の変化についての認識を深める。</li> <li>・身のまわりの物質についての観察・実験を通して、化学の基礎を身に付けさせるとともに、身のまわりの物質の性質と反応を理解させ、身のまわりの物質についての認識を深める。</li> <li>・物質の成り立ちや様々な化学変化を観察を通して理解させ、化学変化と分子・原子についての認識を深めるとともに、物質の世界について理解させる。</li> <li>・生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。</li> <li>・天気の変化を考えるうえで重要な、水に関する実験や考察を通して、天気について考える基礎を身に付けさせるとともに、大気や天気の変化が日本の四季に与える影響を理解させ、気象についての認識を深める。</li> </ul>

## 2. 指導計画

教科	科目	授業時数	対象学年
保健体育	体育	3	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に、健康の保持増進のための実践力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな運動の基礎・基本を学ぶ。</li> <li>練習やゲームの方法を工夫して、友だちと協力して取り組む。</li> <li>健康についてや大人のからだや心に近づいていく様子、中学生の特徴を知る。</li> </ul>
使用教科書	最新 中学保健体育（大修館）
使用副教材	
評価基準	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の技能が優れている。</li> <li>運動の基礎基本を確実に身に付け、実際に向上することができる。</li> <li>運動の方法や健康・安全についての知識を学び生かすことができる。</li> <li>体育的知識（トレーニング理論、スポーツ理論）を習得し生かせる。</li> </ul> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の評価を見つけ、解決の方法を工夫できる。</li> <li>目標を決め、計画を立て、工夫して取り組む。</li> <li>自分勝手でなく、仲間と協力して楽しい活動を進める。</li> <li>安全に留意し、危険を避けることができる。</li> </ul> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで運動を実践し喜びを味わうことができる。</li> <li>体力づくりに関心をもち、意欲的に運動する。</li> <li>集中して頑張るとともに、最後まで力強くやり抜く。</li> <li>授業の決まりや集団行動のマナーを守って活動する。</li> </ul> <p>上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。</p>
学習内容	<p>下記の 2. 指導計画参照。</p> <p><b>【保健】</b> 健康な生活と疾病の予防①②、心身の機能の発達と心の健康</p> <p><b>【体育理論】</b> 運動やスポーツの多様性</p>

## 2. 指導計画

教科	科目	授業時数	対象学年
音楽	音楽	1.5	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	簡単な読譜・楽典事項を理解しよう。／音楽の特徴をとらえて鑑賞しよう。／発声の基本を理解し、協力して合唱しよう。／アルト・リコーダーに慣れよう。／日本の音楽や民謡を知ろう。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆年度初めにアルト・リコーダーの注文をおこなう。</li> <li>◆合唱コンクールを通して、協調性、演奏会のプロセス、鑑賞マナーを身に付けさせる。</li> <li>◆鑑賞教室を通して、鑑賞のマナーや社会性を身に付けさせる。</li> </ul>
使用教科書	中学音楽1 音楽のおくりもの／中学器楽 音楽のおくりもの（教育出版）
使用副教材	なし
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆&lt;各学期の評価&gt;実技100点、ノート・提出物100点、定期テスト100点の300点満点を3で割り、100点満点の評点とする。忘れ物・態度不良等は評点より減点する。教務の規定により10段階、学年末は5段階評定に置き換える。</li> <li>◆&lt;観点別評価&gt;各項目を次のとおりとする。I…実技試験・その他実技の評価（個別の知識・技能） II…プリント・課題等の提出物の評価（思考・判断・表現力） III…定期テストの評価・授業態度（個別の知識・技能、思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度）</li> </ul>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆楽典（各教材の中で指導）：音名（日本・ドイツ）／階名／リズム打ち／ソルフェージュ</li> <li>歌唱教材：校歌／青空へのぼろう／アニメ・ローリー／夏の思い出／赤とんぼ／合唱曲（合唱コンクール用）／ソーラン節</li> <li>◆鑑賞教材：「四季」より「春」／歌曲「魔王」／筝曲「六段の調」／日本の民謡／日本とアジアの音楽／きらきら星変奏曲</li> <li>◆器楽教材：リコーダーの知識／アルト・リコーダーの基本奏法／簡単なリコーダー曲／鍵盤の演奏</li> <li>◆音とは何か／簡単な創作</li> </ul> <p>※今年度は芸術鑑賞のための事前学習（ミュージカル）を実施</p>

## 2. 指導計画

教科	科目	授業時数	対象学年
美術	美術	1.5	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習上の注意・助言           <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品を大切にし、ねばり強く集中し、試行錯誤し、制作に取り組む。</li> <li>・提出物の提出期限は必ずまもる。</li> <li>・準備や後片付けをきちんと行う。(忘れ物をしない)</li> <li>・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。</li> <li>・作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。</li> <li>・鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。</li> <li>・作品について良さや美しさ、感じたことを友達とじっくり話し合う。</li> <li>・年3回の定期テストもしっかり準備して臨む。</li> </ul> </li> </ul>
使用教科書	美術1（開隆堂）
使用副教材	レタリング字典（秀学社） 他にプリント教材
評価基準	<p>[知識・技能] ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。</p> <p>・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。→ 作品・定期テストなどで評価します。</p> <p>[思考・判断・表現] 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。→ 授業プリント・ワークシート・定期テストなどで評価します。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。</p>
学習内容	美術との出会い、スケッチブックから広がる（素描基礎）、水彩画技法、レタリング基礎、色彩と光、イメージを伝える形（絵文字） 彫刻の楽しみ、平面から立体へ（レリーフ）、日本・世界の彫刻

## 2. 指導計画

学年	科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月					
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
1年	美術	美術との出会い…これまでの美術的な経験を振り返り、中学校での美術の課題をみかける。																												
		スケッチの楽しみ(素描基礎)…自分なりの見方や感じ方を大切にして形や色彩の特徴をとらえスケッチやクロッキーをする。																												
		水彩画技法…ボスターカラーを使い水彩画技法の基礎を知り、自由に表現するための基礎的技能を身に付ける。																												
		感じたままに…感じたことを表すのにふさわしい材料を選び、自分にあった方法で表現する。																												
		スケッチ…夏季休業を利用しスケッチを行う																												
		レタリング基礎…文字のデザインの基礎として、レタリングの基礎的技能を身に付ける。																												
		色の広がり、魅力…色の性質や分類について基礎的な知識を学習し、配色などの応用に使えるようにする。																												
		遊び心の造形(文字のハロディ)…伝える内容を形や色を工夫した、ユニークな文字のデザインを考える。																												
		作品との出会い…授業作品の鑑賞を行い、それぞれの独自の魅力を発見し、味わう。																												
		彫刻の楽しみ…平面から立体への変化を考えながら、顔をテーマにしたレリーフを作制作する。																												
		平面から立体へ(レリーフ)																												
		日本・世界の彫刻…異なる風土や文化の違いの中から生まれる表現の豊かさや独自の魅力を発見し、味わう。																												
		学年末考査	1	学	期	中	間	考	査	1	学	期	期	末	考	査	2	学	期	中	間	考	査	2	学	期	期	末	考	査

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語	6	1年生

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	グローバル社会・情報化時代を主体的に生きていくため、コミュニケーションツールとしての英語を習得し、使える力を育成することを目指す。 英語の基礎力を身につけることはもちろんのこと、英語で自分の想いを相手に伝えることができるような表現力をも身につけることを目標とする。
目標を達成するための留意点	英語は継続して取り組むことで成果へつながるので、課題も含め毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 授業の復習を確実に行う習慣を身につけ、習ったことは逃さず理解するよう心がける。特に習った単語や熟語は確実に習得するよう繰り返し音読や意味の確認を行うよう指導する。
使用教科書	NEW CROWN English Series 1・2 (2025 版 三省堂)
使用副教材	* 5 STAGE 1・2 (数研出版) * チャンクで覚える英単語 Basic (三省堂) * ACE CROWN ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY (三省堂) * Get Ahead 1 (Oxford University Press)
評価基準	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3項目を中心とし、「読む、書く、聞く、話す」の4技能も参考にする。定期考査を中心に、平素の学習態度・提出物、学期毎のプレゼン、定期考査、リスニング試験、小テストなどを上記の観点に基づいて総合的に評価を行う。
学習内容	名詞・形容詞・副詞・動詞・英文の構造・時制といった基礎的な文法事項を確実に理解する。英語を使って積極的にコミュニケーションを図る。また、外国人教師による授業においては、会話の中で既習事項の演習も図る。

## 2. 指導計画

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	技術分野	1	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を修得することで、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労や家庭生活の尊さや意義についての理解を深める。</li> <li>● 進んで生活を工夫し想像しようとする態度を身に付け、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよくしようとする意識を持つ。</li> <li>● 仲間の発想や意見を取り入れ、物や技術の価値を自ら判断し、社会の変化に対応したり、主体的に身の回りの技術を活用したり、新たな技術を創造したりする力を身に付ける。</li> </ul>
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践的・体験的な学習活動を中心に、課題解決のための工夫する姿勢や技能を身に付けます。授業で得た知識や技能を、生活に繋げられるように意識して授業に臨んでください。</li> <li>● 課題解決のための工夫の方法はたくさんあります。仲間と協働して学習し、アイデアを拡げていきましょう。</li> </ul>
使用教科書	「新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」(教育図書)
使用副教材	プリント教材 他
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎回の授業に意欲的に参加し、それぞれが課題を持ち解決しようとすること。</li> <li>● 授業内容や実習内容について理解し、定期考查等で表現できること。</li> <li>● 製作する作品や、提出物を自分なりの工夫を加えて完成させ提出できること。</li> </ul>
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術分野で学ぶこと～人類と技術の進化～、生活や産業の中で利用されている技術</li> </ul> </li> <li>2. 情報に関する技術 (D) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習の手順と安全な進め方を知ろう（本校の ICT 機器の使い方含む）</li> <li>・ 文字や静止画などの情報処理（コンピュータのしくみ）</li> </ul> </li> <li>3. 計測と制御 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報通信ネットワーク</li> <li>・ 知的財産権、個人を守る権利や法律</li> <li>・ Scratch を使ったプログラミング</li> <li>・ 生活を豊かにするプログラム</li> <li>・ 双方性コンテンツの活用（ネットリサーチ、表計算ソフトでの分析、プレゼン）</li> </ul> </li> </ol>

## 2. 指導計画

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	家庭分野	1	1年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	家庭生活・衣生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これから的生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。															
目標を達成するための留意点	<p>「A 家族・家庭生活」においては、自分の成長を振り返ることによって、中学生の時期にある自己と家族や家庭生活とのかかわりについて考え、自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことを学ぶ。</p> <p>「B 衣食住の生活」においては、主に衣服に関心をもち、問題点があればそれを改善する工夫を考えたり、自分や家族の衣生活をさらに豊かにするための工夫を考えたりするなど、課題をもって製作や調査などを行い、衣生活をよりよくしようとする意欲を持つ。</p>															
使用教科書	「新 技術・家庭 技術分野 くらしを創造する」(教育図書)															
使用副教材	プリント教材 他															
評価基準	<p>「A 家族・家庭生活」においては、家庭と家族の関係や幼児との生活について関心をもち課題を見つけ、その解決を目指して工夫したり、家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわりについて理解したりしていること。</p> <p>「B 衣食住の生活」においては、衣服と社会生活とのかかわりや計画的な活用の必要性を理解し、目的に応じ個性を生かす生活の工夫、適切な選択ができるこ。衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れや布製品の製作ができること。</p>															
学習内容	<table border="1"> <tr> <td>A 家族・家庭生活</td> <td>B 衣食住の生活</td> </tr> <tr> <td>1章 家族・家庭や地域とのかかわり</td> <td>4章 私たちの衣生活</td> </tr> <tr> <td>2章 幼児の生活と家族</td> <td>1 衣服の働きを知ろう</td> </tr> <tr> <td>3章 高齢者とのかかわりを知ろう</td> <td>2 目的に合わせて自分らしく着よう</td> </tr> <tr> <td>4章 家庭生活と地域とのかかわりを知ろう</td> <td>3 自分に合った衣服を手に入れよう</td> </tr> <tr> <td>5章 衣物の手入れをしよう</td> <td>4 衣服を計画的に活用できるようになろう</td> </tr> <tr> <td>6章 衣物を計画的に活用できるようになろう</td> <td></td> </tr> </table>		A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	1章 家族・家庭や地域とのかかわり	4章 私たちの衣生活	2章 幼児の生活と家族	1 衣服の働きを知ろう	3章 高齢者とのかかわりを知ろう	2 目的に合わせて自分らしく着よう	4章 家庭生活と地域とのかかわりを知ろう	3 自分に合った衣服を手に入れよう	5章 衣物の手入れをしよう	4 衣服を計画的に活用できるようになろう	6章 衣物を計画的に活用できるようになろう	
A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活															
1章 家族・家庭や地域とのかかわり	4章 私たちの衣生活															
2章 幼児の生活と家族	1 衣服の働きを知ろう															
3章 高齢者とのかかわりを知ろう	2 目的に合わせて自分らしく着よう															
4章 家庭生活と地域とのかかわりを知ろう	3 自分に合った衣服を手に入れよう															
5章 衣物の手入れをしよう	4 衣服を計画的に活用できるようになろう															
6章 衣物を計画的に活用できるようになろう																

## 2. 指導計画